道退教釧路支部会報

はくばく

No217 2015-1-30(金)

責任者 三浦真吾

事務局 吉田朝夫

釧路市美原3丁目57-4 TEL36－7426

二〇一五年を迎えて

全北海道退職起用職員の会 釧路支部長 三浦 眞吾

新年を迎え、例年になく厳しい寒さを迎えておりますが、皆様には如何お過ごしのことでしょうか。若い頃は、冬は寒くなくちゃ冬らしくなくては…と、強がりを言ったりしていましたが、この頃は日々の暮らし、燃料費を抑えるために、ストーブのメモリを抑え、厚着で対応している多くの後期高齢者の一人として、春への想いを募らせています。

先月、十二月の突然の解散総選挙。多くの国民から、700億円もの大金を使って年末のこの忙しい時期になんで選挙なんかするのか！と、怒りとも嘆きとも思える声の聴かれるなかでの選挙でした。選挙結果は、与党の自公が議席の三分の二以上を獲得するものでしたが、結果を受けて安倍首相は「…引き続きこの道を真っ直ぐに進んで行けと国民の皆様から力強く背中を押していただきました」と述べましたが、この選挙は国民が安倍政権を信任し、背中を押したなどとは到底言えるものではありません。自民党が今回の選挙で獲得した票は、比例で、一七%、小選挙区で二四%です。にもかかわらず議席の三分の二以上を獲得したのは小選挙区制度という民意切捨ての最悪の選挙制度によるものです。何ら国民の支持を得たものではないということです。

それを何より示しているのが、選挙後の次の世論調査の結果です。「憲法改定反対」「アベノミスクで景気は良くなるとは思わない」「消費費税一〇%に反対」「集団的自衛権容認認に反対」「普天間基地の辺野古への移設一旦停止・白紙に戻す」「原発再稼動反対」と、いずれも八〇%以上の国民が世論調査で応えています。こうした国民の意向を政策にして、それを前面に押し出して総選挙を闘った共産党が、大きく議席を伸ばした事は、大企業利益優先から国民本位の国政転換を願う多くの国民に力強く、明るい展望を持たせたと思います。

今年は、戦後七〇年目の節目の年であります。あの大戦の教訓として世界に宣言した「不戦の誓い・憲法第九条」が、昨年安倍内閣の「集団的自衛権の行使容認」でなし崩しにされようとしています。戦後七〇年間、一人の国民も戦争で殺されず、一人の外国人も殺していません。これは正に憲法九条の「平和主義」によるものです。

昨年の「秘密保護法」の成立を受け、また「集団的自衛権容認閣議決定を受け、これに反対する大きな運動が広がっています。私たち退職教の仲間も九条の会で精力的に活動しています。戦後七〇年のこの年にあたり、こうした活動を更に進めていくことが私たちに求められていると思います。四月には一斉地方選挙が行なわれます。地方政治が少しでも住民本位に前進するために、力を尽くしていきましょう。退職教の加藤さん、深見さんが引き継いで議席に挑戦すると聞いています。お二人の議会報告便りを見ると、住民の立場で奮闘されている事が実に良く分かります。心から拍手を送ります。

私たちもこの二人に負けず、いい議員の当選のために頑張りましょう。

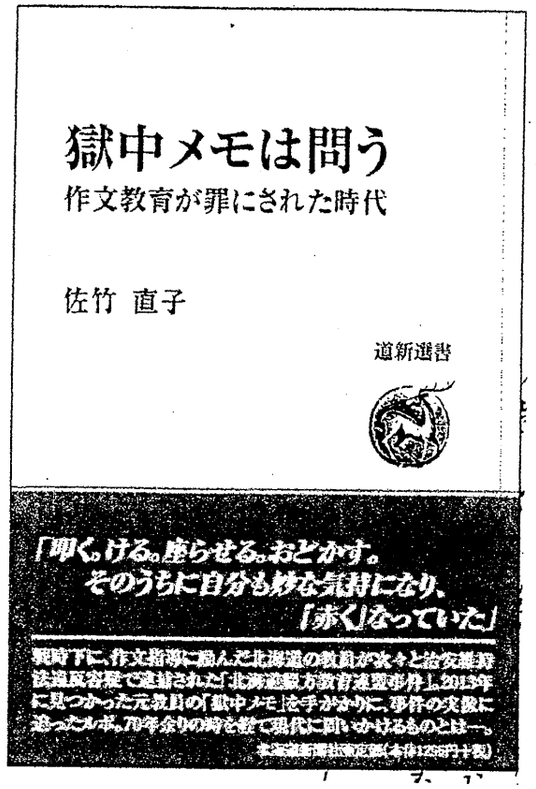
第一〇四回釧民教釧路市集会に参加して

去る一月十三日、釧路市山花のリフレを会場に「第一〇四回釧民教釧路市集会」が行なわれました。午前中は「はじめてスキーをする子、どう教える？」とのスキー講座で、阿寒ロイヤルバレーでの実技講座がありました。開会式と講演は午後となり、約三〇名ほどの参加者で実施されました。演は、矢臼別のたたかい五〇年』と題して、矢臼別平和委員会事務局の吉野宣和氏の講演でした。多くの資料をもとに「平和を返せ！」「米海兵隊移転訓練反対」の闘いをつづけてきた五〇年の足跡を熱く語っていました。本当に長い半世紀の矢臼別のたたかいでした。その後の分科会に参加しましたが、レポートを見ると教育現場の状況は二〇年前の私たちの時代では、考えられない厳しい状況のようです。学力々々で、子どもたちも『先生、普通の授業しよう』との声がしているそうです。算数の授業を二クラスに分け、担任も二組に分けて指導するのだそうで，中々理解できないことでした。そこで、いろんな厳しい状況の中で、何処に問題があるのかを確認して、民教人として、「生き生きと学ぶ方法」は何かを理解し統一することが、今、問われる課題ではないのか…と発言してきましたが、二日目は用事があり欠席しました。厳しい中でも頑張っている息吹は感じてきました。

単行本「獄中メモは問う」の購読依頼について

すでに、ご存知のことと思いますが、昨年の十一月頃から、道新の佐竹直子記者が精力的に取り組んだ「北海道綴方教育連盟事件」の実像に迫ったルポが何回かにわたって新聞紙上に掲載されました。この事件は私たち退職教会員には忘れてはならない今は亡き「坂本亮」氏をはじめ、高嶋幸次さん（元標茶町長）や多くの大先輩たちが遭遇した道東の教師達の「北海道綴方教育連盟事件」は、忘れてはならないものです。退職した私たちや、現場の教師にとっても、「集団的自衛権行使」や「特定秘密保護法」の施行をもくろむ安倍政権のきなくさい現実の政治情勢の中で、“いつか来た道”を辿るような危惧を抱くのは、平和を願う私たちにとって一読必見の書です。私も購読中です。是非、一冊お求め戴いて、知られざる実像を熟知して頂きたいと、事務局からお勧めするしだいです。

尚、佐竹記者の依頼書簡は裏面に記載。



全北海道退職教職員の会釧路支部

事務局　吉田朝夫　様

はじめまして、北海道新聞釧路支社報道部の佐竹直子と申します。高橋茂雄先生のご紹介で、突然ですがお便りをさせて頂きました。12月６日に北海道新聞社から、著書「“獄中メモは問う”作文教育が罪にされた時代」が刊行されました。戦時下に作文教育に励んでいた北海道の５０人を超える青年教師たちが治安維持法の拡大適用で逮捕された北海道綴方連盟の実像を追ったルポです。

三浦綾子の長編小説「銃口」の題材となったことで知られる事件ですが、実は１９４０年１１月に、釧路の旧東栄小学校の先生が逮捕されたことからはじまっています。

ひょんな出会いから、高橋茂雄先生に著書を手にして頂いたところ、共感していただき「全北海道退職教職員の会釧路支部」への案内を勧められました。

２０１３年８月に、偶然に、この事件で逮捕された元教員の一人が、勾留中の釧路の刑務所で書いたと見られる「獄中メモ」を私自身が見つけてしまったことが取材のきっかけでした。

以来、事件関係者の遺族を探して全国を歩き、一年半かけて取材してきました。戦時下の話ではありますが、驚くほど現代の課題に通じるものがあり、身が震える思いでした。

今こそ、一日も早く、一人でも多くの方にこの埋もれかけた史実を知って欲しい‥‥と強く思っております。

現在、北海道新聞夕刊根室版で連載しております。本は、コーチャンフォーなど、道内主要書店と道新販売店で取扱っております。２０１３年１１月から連載している記事が土台となっておりますが、出版用には大幅に加筆し、人間ドラマを主軸に新たな原稿を書き下ろし、当時の子供たちの作文も収録しています。大変あつかましいのですが、もし読んで頂き共感して頂けたなら、お仲間への口コミをどうぞ，どうぞよろしくお願いします。１日も早く、一人でも多くの方に読んでいただきたいのです。　**あやまちは繰り返さないように**

佐竹直子

2月の行事案内

『泊原発の廃炉をめざす会』釧路のつどい

・日　時　二月九日（月）午後六時三〇分
・場　所　交流プラザさいわい　3階ホール
・講　師　・市川守　弘弁護士（泊原発廃炉訴訟　弁護団団長）
　　・小林善樹氏（泊原発の廃炉をめざす会世話人）
・参加費　一〇〇〇円（資料代）

・小林多喜二を語るつどい・くしろ

・期　日　二月十四日（土）十三時三〇分開演
・場　所　釧路市まなぼっと　5Fハイビジョンシアター
・講　演　『多喜二と選挙』　・チラシを同封しました。
・講　師　松本信氏（日本民主主義文学会員　文芸評論家）
・会　費　五〇〇円（高校生以下無料）

もし多喜二が今の時代に活動していたらならば、どのような選挙戦を戦っただろうか　想像するだけでも、たのしくなる。多喜二は、銀行に勤めながら、一九二八年の第一回普通選挙で、北海道一区から立候補した非合法の日本共産党員山本懸蔵を応援しました。この体験に基づいて書かれた「東倶知安行」や（一九二八年三月十五日）などを手がかりに多数者獲得のためにどのようなことに心砕いたか一緒に考えて見ましょう。（チラシより）

考えてみませんか「断捨離」を！

・退職して〇〇年、輝いて活動していた友人が一人、又一人と居なくなったり、「孤独死」のニュースに触れるたびに、何ともやり切れない思いにさせられたり、現職時代の思い出の品々を出しては懐かしみ、中々処分できない‥‥そんな事はありませんか。人間の命には限りがあります。そんな日のために心積もりをしておくことも大事ではないでしょうか。実際に遺品整理に携わっているプロの方から、お話を聞いたり、ビデオを見せてもらうなどして意見交換をしたいと思います。――　実は、こんな事が役員会議で話題となり、こんな「断捨離」について話しをしてくれる仕事をしている人がいるとのことで、五月頃にでも、利用して話を聞いてみようか、という事になりました。追って詳しい事は次号の「はくほく」でお知らせいたします。

爺ちゃんが昔・戦争にいった話

・菊池義夫さんから、「われ八十路を往く」（手帳日記から）と題した書簡が届きました。今回は「爺ちゃんが昔・戦争に行った話」として、孫に語った対話が書いてありました。大変貴重な孫との会話は、実感のこもった内容です。

・私たち退職教の中で、唯一軍隊経験を持つ菊池さんの語りは、平和を願う私たちにとってもは貴重な一文です。